

思うんですよ。

佐賀 うん。だいたい竹トンボという言葉のイメージがなくなつたということもあるかもしれない。トンボというものがどんなものか、という事を知らない子が都会にはうじゃうじゃいる。土浦だって昔に比べりゃ、トンボの姿がずいぶん見られなくなった。だから僕らが竹トンボという時に想い浮べるイメージと今の子供らが浮べるイメージには、ずいぶんギャップが生まれているんじゃないですかね。だから坂場さんの言つたように、環境がひどく変つたために「生活の中から生み出されていた遊び」が、ひどく制限されているということが原因しているんじゃないでしょうか。

### 三、蛙とえびがにつり

坂場 最近田んぼが少なくなつたから蛙の声も聴けなくなりましたが、昔はよく蛙でえびがになんかを釣りませたね。

佐賀 そう、ひどく残酷でしたよ。蛙をとって、田のくろにたたきつけてね、皮をひんむいて、たこ糸にくくりつけて、つったもんです。今はもう家がぎっしり建つてしまいました。だが、今の第一中学校の裏は田んぼと運田で、小川があつて、あそこでバケツいっぱい

えびがにをつつたもんです。

坂場 私の在は那珂湊ですのね、えびがにの代りに、海の蟹を釣りましたよ。餌は魚の切れはしや蟹の身でしたが、突堤にたくさんいて、ずいぶん大きいのが釣れましたよ。いまはもう茨城の海はひどく汚れてしまつて、のんびり釣りをする雰囲気じゃなくなりまして。しかし私だつてまだ三十代ですから、昔といつても、そう昔じゃないんですよ。

### 四、けたあそび

坂場 それからよく小川へ行つて笹舟を流したでしょう。でも笹舟は流して、それでとれなくてもかまわないわけですよ。それではスリルが無いというので、私らは下駄を流すんです。そして途中で大きい土管があつたりすると、向う側へ行つて、出て来るのを待つているんですね。ところがどうかするといつまでたつても流れて来ない。そんな想い出が何回もあります。親に叱られましたね。

佐賀 うん、下駄で思い出したけれども、よく夕方、学校の庭なんかで「あした天気になーれ」なんて空に蹴上げたですね。そうすると、こもりがビューと飛んできて、キキキと鳴くんです。